

心理学・教育学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・社会学委員会・史学委員会
会・地域研究委員会・情報学委員会合同
デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会（第25期・第3回）
議事要旨

日時：令和3年9月10日（金）13:00-15:00

会場：オンライン（Zoom）

出席者：川嶋四郎 佐藤嘉倫 西田眞也 矢野桂司 隠岐さや香 奥田太郎 木部暢子 黒木英充 近藤康久 下田正弘 永崎研宣 橋本隆子 金水敏 大平英樹 土井美和子（名簿順、敬称略）

議事

（1）新委員の自己紹介・幹事就任報告

土井美和子（自己紹介）、木部暢子、隠岐さや香（幹事就任）

（2）前回議事要旨の確認

前回議事要旨を確認した。

（3）情報共有：文科省概算要求「データ駆動型人文学研究先導事業 ～「総合知」創出に向けたデジタル・ヒューマニティーズの強化～」について

背景にあると思われる、第六期科学技術イ基本計画、統合イノベーション戦略2021、第7回学術分科会人文学・社会科学特別委員会、「総合知」の創出・活用に向けた人文学・社会科学振興の取組方針について確認し、若干の議論を行った。

（4）デジタル時代における日本語研究の報告・議論

参考人：小木曾智信（国立国語研究所教授）

「コーパス日本語の展開現状と課題」

本報告では、国立国語研究所を中心とした日本語コーパス構築利用に関わる全体的な流れから日本語の歴史コーパス、方言コーパス等の現状について紹介した後、現在の日本語コーパス研究における構築・運営・利用やそれに関わる人材育成等の課題が提示された。その後、全体で議論が行われ、日本語学の立場からの補足や情報学の立場からのコメントが行われた。また、これに関連して、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「予測的符号化の原理による心性の創発と共有-認知科学・人文学・情報学の統合的研究-（代表：大平英樹）」の紹介が行われ、データと研究者の関係についてのあり方が議論された。

（5）第25期の活動計画

●11月分科会のテーマ

「デジタル時代における過去から現在までの日本の社会についての研究」とし、日本史と社会学を主なテーマとすることが議決された。

●1月シンポジウム

文科省概算要求「データ駆動型人文学研究先導事業 ～「総合知」創出に向けたデジタル・ヒューマニティーズの強化～」を踏まえ、「総合知の創出とデータ駆動型人文学」として開催することが議決された。